

## 千代紙で彩る多様性 コーポレートスローガンの想いを表現

キッコーマン株式会社  
経営企画室 コーポレートブランド担当マネジャー  
黒川 博子 氏 (くろかわ・ひろこ)

キッコーマングループは1917年の設立以来、しょうゆをはじめ、食品や飲料、酒類など、さまざまな商品やサービスを提供しています。

当グループは「おいしい記憶をつくりたい。」というコーポレートスローガンを掲げています。「おいしい記憶」は、食にまつわる体験を通じて積み重ねられます。地球上のより多くの方がしあわせな記憶を積み重ね、ゆたかな人生をおくれるようお手伝いをしていきたい、という想いをこめています。

新聞広告は、スローガンにこめた想いを情緒的に訴求し、多くの方と共有することを目的に出稿しています。今回の広告では、華やかな紋や柄の豊かな和紙でつくられた色とりどりの「千代紙」の世界を、季節の食材を使った和の食の彩り、料理をするよこびと重ねて描きました。色鮮やかな世界を、料理で楽しみながら、伝えながら、色とりど



朝日新聞 (2024年3月17日付)、読売新聞 (3月23日付)



読者から寄せられた手芸作品

りのおいしい記憶がひろがっていく。そのよろこびを、すべての人に届けたい。そんな想いを、「多様性」という言葉にこめて表現しています。

広告をご覧になったお客様からは、「美しく素敵な広告」「鮮やかな色彩で思わず歓声を上げた」など、ありがたい感想が多数寄せられました。コピーも共感を呼び、「写真も言葉も優しくてあたたかく心が潤う」という声もございました。また、広告紙面の絵柄を使用した手芸作品が複数届きました。い

ずれも「広告がきれいだったので形にして残したい」と、制作してくださったものでした。出稿した新聞広告に共感いただき、お客様がかわいらしい姿に変えてお届けして下さることや想いを発信して下さることは大変うれしい反響でした。

これからも商品やレシピなどの提供と併せて、「おいしい記憶をつくりたい。」にこめた私たちの想いを共有し、多くの方が「おいしい記憶」を積み重ねるお手伝いをしていきたいと考えています。

## 新聞広告で社会貢献施策を発信 より良い社会の実現に向けて

よつ葉乳業株式会社  
総務広報グループ  
蔵田 英正 氏 (くらた・ひでまさ)

よつ葉乳業は1967年、「酪農経営の長期安定」と、「自分たちの手で、より良い牛乳と乳製品を消費者の皆様にお届けしたい」という酪農家の思いから、農民資本により設立された乳業会社です。北海道産の良質な生乳を原料として使用し、おいしく安全で高品質な牛乳・乳製品としてお届けすることで、酪農家と全国のお客様の架け橋になる、それが創業当初から変わらない当社の使命です。

当社は道内外におけるブランド認知向上への取り組みとして、2017年から全国のランナーが集う「北海道マラソン」に協賛していますが、同時にこの大会をSDGs活動の一環と位置付け、さまざまな社会貢献施策を実施しております。また、この取り組みをより多くの方々に知ってもらいたいとの思いから、活動の採録広告を北海道新聞に掲載しました。

具体的にはパラスポーツへの理解醸成のため、視覚障がい者ランナーおよび伴走者が着用するピブスの贈呈を毎年行っています。また、24年大会からランナーの最後尾でゴミ拾いをしながら完走を目指す「プロギングプロジェクト」を導入しました。当社は「北海道マラソン」がより持続可能でクリーンな大会となる一助になればとの思いで、この活動の支援を継続したいと考えております。

さらには22年より札幌視覚支援学校の教諭や生徒、OBがボランティアで実施している「無料マッサージブース」の特別協賛を実施しております。晴れた日は30度を超える過酷な環境の中、4~5時間屋外で施術を行っている現状を知り、扇風機の設置や通気性の良いユニフォームの提供など環境整備のサポートを行っています。同校の教諭は「障がいを持つ私たちは、日頃から多くの方に助けられている。大会を通してその恩返しをしたい」とこの活動の意図を話していました。



北海道新聞 2024年9月28日付

私たちは、この大会に携わる方々の思いを新聞という広告媒体を通して、たくさんの読者に知らせていくことが企業の役割の一つであると認識しており、こうした活動によって「より良い社会の実現」につながっていくものと考えております。